令和５年度　自己評価書

学校園名　附属小金井小学校

１　学校経営計画　別紙のとおり。

２　自己評価

領　域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	◎いじめ防止等への取り組みの充実 ・学校に一人一人の居場所があり、自らの存在を実感できるよう、様々な機会をとらえて活躍する場面を作り、互いに認め合える雰囲気づくりに努める。 ・いじめ等が発生した場合は、管理職や学年主任等への報告・相談を確実に行い、問題を組織で連携、協力して解決する。 ・いじめ防止対策委員会のスピード感や実効性を高めるため、初期段階において必要最小限度の複数名で会議を構成し、問題に迅速に対応する。	●学年内だけではなく、管理職や養護教諭、スクールカウンセラーとともに迅速な情報共有を図り、問題発生時の聞き取り調査等は、担任だけではなく学年担任や養護教諭も関わることで、スピード感をもって組織的に対応することができている。今後は学年担任が不在の１～３年生のサポート体制をより一層充実させる。 ●保護者アンケートでは「児童は学校が好きで毎日楽しく登校している」が今年度も４点満点中3.55と評価が高かった。	B	●学年担任が不在の１～３年生については、教務主任や養護教諭、スクールカウンセラー等のフォローを充実させ、サポート体制を強化する。 ●附属学校スクールソーシャルワーカー(2名)や関係機関との連携をさらに充実させて迅速に対応する。	●経験の浅い教員に対して具体的な場面を通して指導理念や指導技術を伝達していく。 ●一人一人の居場所づくりに関連して、各自の得意分野で自分に自信をもたせるようにしていく。
教育活動	◎宿泊生活の充実 ・宿泊生活においては、日常では体験できない教職員や友達とのかかわりの中から相互理解を深め、互いに支え合って登山やハイキング、水泳等を行い、教育目標である「明るく思いやりのある子」と「強くたくましい子」の育成を図る。	●課題であった4･5年生の林間学校（一宇荘生活）におけるキャンプ場での食事作り活動は、感染対策を徹底し、調理器具や調理方法を工夫することで実現することができた。 ●保護者アンケートで「宿泊生活が充実して行われている」という項目は、3.16から3.59へと昨年度より数値が上昇したように子どもたちは豊かな自然の中で友達とともに充実した体験活動を行うことができた。	A	●コロナ禍の4年間のブランクにより、教員側の経験不足は否めないため、丁寧な実地踏査やこれまで構築してきたノウハウを確実に引き継いでいく。	●児童全員がより主体的に参画し、実践に取り組む活動を模索していく。

研究活動	◎研究成果の積極的発信 ・公開授業研究会「KOGANEI授業セミナー」においては、感染対策を徹底する中で最大限の参加者数を目指す。 ・研究成果を地域教育界へ普及・還元させるため、東京都や近隣都市から参加する教員の割合が30%を超えることを目指す。	●今年度は改修工事期間中にもかかわらず、運営方法を工夫して、対面での参加者が昨年度の190名から約600名に増え、当日は活発な情報交換をするとともに、研究成果を発信することができた。しかし、近隣からの参加者は30%を超えることができなかった。	B	●近隣、特に小金井市からの参加者を増やすため、日頃からの連携をより一層深めていく。	●YouTube等のインターネットでも魅力的な授業実践を提案していく。
学生の教育・支援活動	◎学生ボランティアの受け入れ ・これまでの学部生や院生の学生ボランティアだけではなく、大学新設授業科目の学部1年生を積極的に受け入れ、学生が学校現場等で体験活動を行い、教職の意義や魅力を体感し、課題に気づく場を提供する。	●多くの学生ボランティアや学習支援員を受け入れ、学校現場での体験の場を提供できたが、大学新設授業科目の学部1年生のボランティアの応募が全くなかった。	C	●大学新設授業科目の学部1年生のボランティアの応募について、大学と連携しながら受け入れ体制を構築する。	●ボランティアの受け入れについて、大学側に対して学校現場から有効な提言をしていく。
社会貢献活動	◎外部研究会への講師の派遣 ・本学が連携事業を推進する地区（岩手県二戸市、滋賀県高島市等）ならびに地域教育界等との連携、協力を図るため、研究会等への本校教員の派遣ならびに教員の研修受け入れを積極的に行う。	●岩手県二戸市から３年目教員研修として２名を受け入れたり、本校の教員４名が小金井市内の研究会に講師として参加したり、小金井市内の教員が本校の研究発表会に参加したりするなど、連携事業推進地区や地域教育界とのネットワークを強化することができた。 ●文科省の「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」に採択され、小金井市教育委員会とともにICTを活用した授業研究システムを開発した。児童の話し合いの様子をデータ化し、授業者と管理職が授業について建設的な話し合いを行うことができた。	A	●市の校長会で、校内研究会等へ講師・協力者を派遣することをアピールし、引き続き連携強化を図る。 ●今回のモデルは他の公立小学校でも活用できるものであり、今後は参画している企業等と協力して一般的に利用可能なパッケージにしていく。	●小金井市教育委員会とともに開発した「ICTを活用した授業研究システム」を公立小学校でも活用できるようなパッケージにしていく。

3　その他特記事項　　●特になし

4　自己評価委員会委員、開催日　　●委員：校長、副校長、主幹教諭2名　　●開催日：2024年2月16日